



参照『蛭雪時代』
NHK 教育
「ベンゼミ」

今月は **学校推薦型選抜・総合型選抜** について特集します。

- ◎ 「推薦入試」⇒「学校推薦型選抜」、「AO入試」⇒「総合型選抜」に名称変更
- ◎ 調査書には、高校での学習や活動実績を詳細に記入しアピール

①学校推薦型は公募制と指定校制

公募制推薦入試とは、大学が提示した出願条件を満たす人について、学校長の推薦に基づき、高校の成績や活動ぶり、面接や小論文、学力検査などを総合して合否を判定するもの。国立大は原則として公募制推薦で行われ、指定校制推薦はない。一方、私立大は全体的に公募制推薦と指定校制推薦を併用して実施している大学が多い。指定校制推薦は大学が指定した高校から人数を限って出願を受け付ける入試制度。大学は過去の入学者数や入学後の成績などをみて高校を指定する。指定校推薦では、事前に「高校内選考」があるので、実際の選抜は調査書が中心になる。

②最重要は「全体の学習成績の状況＝評定平均値」

学校推薦型選抜の出願条件は、学業成績、現浪、併願の可否などで、最も重要なのは学業成績。学業成績は、調査書に「全体の学習成績の状況」または「学習成績概評」として記載されている。「全体の学習成績の状況」とは、調査書に記載された全教科・科目の成績（評定）を足し合わせて、その合計数を全科目数で割ったもの。学習成績概評は、「全体の学習成績の状況」に応じてA～Eに区分されている。（右図参照）いずれも、現役生は**1年から3年の1学期まで**、浪人生は3学期までの成績が調査書に記入され、出願条件の大きなポイントとなる。

③「専願」「併願可」、学業成績基準にも注意

学校推薦型選抜では、この大学しか出願できない、つまり他大学との併願が認められない「専願」という条件がある。国公立大はほとんどが「専願」で実施、私立大は大学により異なるが、全国的に見ると、首都圏の大学に「専願」が多く、関西地区の大学に「併願可」とする大学が多い。「専願」の場合、合格すると入学辞退が認められないので要注意。また、私立大の指定校制推薦は、原則として「専願」なので気をつけよう。

3年1学期(前期)の中間・期末テストが最後のチャンス!

学校推薦型・総合型選抜の出願条件

現浪
併願の可否

高校での学業成績
「全体の学習成績の状況」がもっとも重要!

「全体の学習成績の状況」をアップさせるため、3年1学期(前期)の**中間・期末テストで高得点**を取ろう!

現役生の場合 → 全体の学習成績の状況 = $\frac{1年 \sim 3年1学期(前期)までの「全教科・科目の成績の合計」}{すべての科目数}$

学習成績概評	A	B	C	D	E
全体の学習成績の状況	5.0～4.3	4.2～3.5	3.4～2.7	2.6～1.9	1.8以下

※「全体の学習成績の状況」をA～Eの5段階に区分した「学習成績概評」を出願条件にする大学もある。
※学習成績概評Aの者のうち、特に優秀で校長が責任をもって推薦できる者については◎と標示できる。

◎総合型選抜のスケジュール例

大学	入試方式	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
国公立大	総合型選抜 共通テスト課す				出願-1次選考(書類審査)	2次選考	共通テスト	合格発表 入学手続	
	総合型選抜 共通テスト免除			出願-1次選考(書類審査)	2次選考	合格発表・入学手続			
私立大	総合型選抜		エントリー・面接	出願-1次選考(書類審査)	2次選考	合格発表・入学手続			大学によっては3月にかけて複数回実施するところもある

◎学校推薦型選抜のスケジュール例

大学	入試方式	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国公立大	学校推薦型選抜 共通テスト課す	共通出願受付	出願	選考	共通テスト	合格発表 入学手続	
	学校推薦型選抜 共通テスト免除		出願	選考	合格発表・入学手続		
私立大	学校推薦型選抜 (公募制)		出願	選考	合格発表・入学手続		大学によっては3月にかけて複数回実施するところもある

A すぐに仲良くなろうとする⇒熱しやすく冷めやすい…【一般入試】タイプ
 B 徐々に仲を深めようとする⇒熱しやすく冷めにくい…【学校推薦型】タイプ
 C よ〜く観察してから仲を徐々に深めようとする⇒熱しにくく冷めにくい…【総合型】タイプ

	一般入試	学校推薦型選抜	総合型選抜
入試方法	①大学入学共通テスト ②大学独自の試験 受験科目 ・国立大学：5教科7科目 ・私立大学：2～3科目	①書類審査(調査書など) ②面接や小論文による人物評価 ※実技試験が課される場合も	①書類審査(志望理由書など) ②面接や小論文などによる人物評価 ※ユニークな実技試験も
資格と条件	高等学校卒業見込み	①高校からの推薦 ②出願条件を満たす ・公募制一般推薦：定められた評定平均値以上であること ・公募制特別推薦：都道府県レベルでの大会での上位入賞など ・指定校制推薦：校内選抜で選ばれること	出願条件を満たす (例)・オープンキャンパスへの参加 ・アドミッションポリシーに合う資格 (英検準1級以上 TOEIC700点以上 など)
対策	・国立大学 科目数が多いので得意科目での高得点を目指す ・私立大学 科目数が少ない分、難易度が高い問題が出るので注意 ※私立は志望校が変わると教科も変わる	・高1の時から評定平均値を上げるよう意識する ・授業、生活態度を良くする ・部活動や学校外活動など、得意分野で実績を上げる ※基準の評定平均値を満たしていても、特定の科目が極端に悪い場合は面接で突っ込まれることも!	・志望校のアドミッションポリシーを早めにチェック ・実技試験への具体的な対策(プレゼンテーションなど) ・目標のための実績づくり ※自分以外の人に書いてもらう書類があるため、早めに相談しないと出願に間に合わないことも!